

平成29年度 市立横手病院 方針書

市立横手病院 事務局長

浮嶋 優子

1. 市立横手病院の使命（役割）

- ・医療圏の基幹病院として、地域の人々が必要とする医療を確保し、安心できる良質な医療を提供する。
- ・地域の急性期医療を担う。
- ・地域の病院、診療所、行政等との連携を図り、地域包括ケアの具体化実現に寄与する。
- ・地域住民の健康確保と地域保健に貢献する。

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・経営健全化のための取り組みの継続。
- ・収益の確保と低コスト運営の継続
- ・医師・医療スタッフの人材確保と支援

3. 平成29年度の『スローガン』

安心できる良質な医療の提供

4. 年度目標となる方針（目標）

- ・安全で質の高い医療の提供と更なる充実
- ・地域包括ケア推進のための取り組み
- ・人材確保・育成と自己啓発・研鑽の推進
- ・業務改善と活気ある職場づくり
- ・病院経営への積極的な参画
- ・施設の計画的な改修

5. 重点取組項目

(1)	項目	経営健全化のための取り組み
	取組内容	チーム医療の充実や高度医療機器の整備等により、安全で質の高い医療の提供を行うとともに各病棟において効率的な病床運営を行い収益の確保を図る。更に低コスト運営のための方策を再検討し健全な病院経営を行う。
(2)	項目	人材確保・育成と自己啓発・研鑽の推進
	取組内容	・医師(呼吸器内科・麻酔科等)、医療スタッフ(看護師・薬剤師・臨床工学士・管理栄養士)の確保と専門資格取得(糖尿病・緩和・認知症・手術・細胞検査等)への支援。 ・臨床研修医のフルマッチ ・職員のスキルアップのための研修の開催
(3)	項目	院内設備改修に係る改修手法の検討
	取組内容	求められる医療提供のための施設の整備を行うため、施設の更新計画を策定する。 ・建築年月の異なる建物が3棟あり、それぞれ老朽化の状態や管理の対応も一様ではないため、施設の改修、設備の更新について計画の策定を行う。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

地域包括ケア病棟の活用で急性期病床の効率的な運用ができ、さらに病床稼働率のアップにより入院収益の増につながった。しかし、入院単価については、施設基準の取り下げにより算定できなくなった項目がありその分単価に影響が出た。また、外来収益においては、患者数の減により昨年度と比較してマイナスとなった。

費用に関しては、医師、看護師への手当などの増により給料の支出が増額となり、経費では光熱水費や燃料費が増となった。

医療スタッフでは各部門での確保ができたが、医師に関しては引き続き対応が必要。

院内設備改修に関しては、施設整備基本計画策定委員会を設置し検討を行った。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

更に効率的な病床運用で病床利用率アップと、安全で質の高い医療の提供、チーム医療の充実、CT等の最新技術の提供、薬剤業務の充実に努める。

経費節減に向け、各部署に配置した「省エネ節電担当」を中心とした省エネ経費節減対策を行う。施設改修設備更新の優先順位の確定と計画策定に向けた検討を継続する。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

効率的な病床運営により、下半期においては病床利用率がアップし、入院患者数の増につながった。新入院患者数の増加と、地域包括ケア病棟の効率的な活用により、急性期病棟の重症度・看護必要度が維持され、7対1の看護基準が保たれた。このことにより入院収益においては、昨年度より増収となった。しかし、外来では患者数の減により外来収益は昨年度と比較して減収となった。

経費節減に向けた対策として「省エネ節電担当」を中心に節減を行ったが、電気・重油の値上がりと、使用量の増により経費が増となった。

また、施設改修設備更新に向けた検討は、「施設整備基本計画策定委員会」を中心に検討を行い、次年度に継続して取り組むこととなっている。

次年度においては、地域の急性期医療を担うとともに地域医療・地域保健に貢献し、安心できる良質な医療の提供を行います。

さらに、診療報酬改定が行われることから、自院の収入確保に加え、病床の維持、担うべき役割・ポジショニングについて検討が必要となる。